2026 年第 44 週の報告です。
インフルエンザは南丹と中丹東で注意報レベル、今週も**咽頭結膜熱**が山城北で警報レベルです。**水痘**が中丹西で新たに注意報レベルとなりました。
全数把握対象疾患は、**結核**が 5 件、**腸管出血性大腸菌感染症**と**侵襲性肺炎球菌感染症**がそれぞれ 2 件、**エムポックス・レジオネラ症・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症・水痘（入院例）**と**百日咳**がそれぞれ 1 件、**梅毒**は 4 件が報告されました。

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症は今年 29 例目の報告で、昨年の合計 28 例を現時点で上回りました。ただ、2018 年～2024 年までは年 40－50 例の報告があったため、長期的には従来より低い水準で推移しています。
カルバペネムは広範囲の細菌に対して効果を示す抗菌薬であり、重症感染症の治療に用いられる最も重要な抗菌薬の一つです。本疾患はその薬剤が効かない（耐性を持つ）腸内細菌による感染症の総称で治療に使用できる抗菌薬が限られることが問題となります。呼吸器感染症、尿路感染症、皮膚・軟部組織感染症、敗血症、そして髄膜炎など、さまざまな部位で発症します。府内（京都市を除く、2019～2024 年）で最も多かったのは尿路感染症（44%）でした。
抗菌薬の不適切な使用や不十分な感染対策によってこれらの耐性菌は増加します。現在カルバペネムだけでなく多くの抗菌薬に耐性を持つ菌も増加しています。これらの菌がまん延すると感染症の治療が非常に難しくなってしまうため、感染症法において 5 類感染症に指定され、全数が届け出・管理されています。
11 月は薬剤耐性（AMR：Antimicrobial Resistance）対策推進月間です。薬剤耐性菌を増やさないためには、感染対策と抗菌薬の適正使用の両方が重要です。この機会に抗菌薬についての正しい知識を学びましょう。

薬剤耐性 AMR 対策推進月間 2026｜ かしこく治して、明日につなぐ～抗菌薬を上手に使って薬剤耐性（AMR）対策～ ｜AMR 臨床リファレンスセンター

▶参考資料
京都府保健環境研究所 ｜ 京都府におけるカルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症の発生状況（2019-2024 年度）